特定非営利活動法人
北鎌倉台峯トラスト　北鎌倉の景観を後世に伝える基金

会報　北鎌倉だより

２００１年１２月　NO６

なだ　いなだと北鎌倉周辺をあるく
（２００１・１１・１８　台峯）

目次

■第３回「北鎌倉・台峯トラストの集い」
■活動・会計報告　鎌倉市長回答文
■正気を保てる街　全国大会報告
■北鎌倉文学散歩　東慶寺
■談話室（会員欄）
■伝言板　「北鎌倉の風」第３号発刊

無視のできない存在に

色鮮やかな紅葉が見頃となった11月25日（日）、「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」は、第3回目の会員との交流会である「北鎌倉台峯トラストの集い」を開催した。集いには会員と基金関係者40人以上が、参加した。場所は昨年と同じ円覚寺書院で、円覚寺からは無償で会場を提供していただいた。

冒頭、なだ　いなだ理事長が「台峯緑地を全部買い取るには、難しい金額だが、決して無視できないお金が、寄せられている。また、台峯を定期的に歩くなど、3年間活動を続けてきた成果が実って、行政から無視のできない存在となり、声がかかるようになった。しかし、課題も多い。課題の1つは、どうやって若い人をこの運動に巻き込んでいくかだ。二つ目は規約で政治活動はしないと定めているが、果たして政治抜きで問題の解決ができるかとの疑問だ。行政、政治を動かすにはどうしたらいいか、会員の皆さんのお知恵を拝借したい」と挨拶した。

そこにある多くの命の拠り所

続いて広町緑地を中心に自然をスライドにおさめている来賓の岩田功さんと当基金へこれまでに多額の寄付されているみどりショップを代表して仙田みどり鎌倉市議が挨拶をした。岩田さんは挨拶の中で「単に言葉で説明するだけでなく、具体的にどういう動植物が生息しているかを知ってもらいたいとの思いで、スライドを見てもらっている。今朝のテレビの自然番組の締めくくりの言葉が『すぐそこにある多くの命の拠り所』だった。これはまさしく台峯であり、広町である。これからも自然を見つめていき、動植物と心を通い合わすことができればと思う」と述べた。

ナショナル・トラストへの脱皮を

今回の集いの記念講演は「ナショナル・トラストと私」という演題で北島悟（社）日本ナショナル・トラスト協会常務理事、事務局長にお願いした。北島常務理事は講演直前に、同協会と英国本部の窓口構築のために訪英しており、トラスト発祥地・英国の最新トラスト事情を分かりやすく解説してくれた。講演の中で「一つの組織である英国から見ると日本のナショナル・トラストはよく分からないようだ。日本は各地でバラバラにやっているので、ローカル・トラストではないかと思われている。原点は地域だが、北鎌倉台峯トラストも、ローカル・トラストに甘んじないで、真のナショナル・トラストを目指してほしい」と北島常務理事は指摘した。

円覚寺山門

活動報告（2001年7月～）

1 「なだ　いなだと北鎌倉周辺をあるく」（毎月第3日曜日に定期開催）

2 鎌倉市長選への対応

＊立候補予定者6名への緑地保全に関する質問状提出（10・8）

＊立候補予定者からの回答を会員向けに郵送（10・12）

＊石渡新市長と面会し、緑地保全に対する見解を確認（11・21）

3 （社）日本ナショナル・トラスト協会主催の全国大会参加

場所　大分県臼杵市　日時　10・19～20

4 ホームページ開設（9月　伝言板にＵＲＬ掲載）

5 日本ナショナル・トラスト協会より10万円の助成金を受け、機関誌「北鎌倉の風」第3号発刊（11・1）

6 北鎌倉台峯トラストの集い（11・25）

7 会報「北鎌倉だより」NO6発行（12・2）

会計報告―10・31現在―

（詳細な会計報告を必要とされる方は、事務局にお問い合わせ下さい）

緑積立金　9、600，889円

正会員数　20人　**普通会員数**　643人（個人会員数　634人　法人会員数　9件）

寄付件数　780件

石渡市長との面談要旨

11月21日、午前9時50分から同10時15分まで、当基金の石黒副理事長、新槙、和泉、小林、齋藤、望月の各理事が、鎌倉市長室で石渡市長と面談しました。席上、同市長は□ 選挙前の緑地保全に関する質問への回答に書いた言葉は守る□ 12月16日開催予定の「なだ　いなだと北鎌倉周辺をあるく」に参加する□ 11月15日付け広報「かまくら」の就任挨拶に緑地保全に触れなかったのは、「原稿の締め切りが当選直後で慌ただしくて、後で気付いたが挿入する時間がなかった」―などと答えました。

参考までに、石渡市長の回答全文を次ページに掲載しておきます。

石渡鎌倉市長（立候補予定者時）の基金の質問状への回答

２００１年１０月１２日

質問　１　１９９７年、鎌倉市の緑地保全条例（みどり条例）が成立しましたが、今後、この条例をどのように活用されますか。
石渡徳一氏　緑地保全推進地区の指定制度を活用して、土地所有者の理解を得る努力を重ねながら、緑の保全に努める。

質問　２　緑地保全について「住民投票条例」を制定し民意にしたがうべきとの意見がありますが貴方のご意見は。
石渡徳一氏　いくつもの手法を組み合わせながら緑を守らなければならないのでYESかNOかの住民投票には、なじまないのではないかと考えます。

質問　３　台峯緑地について、鎌倉市は「緑の基本計画」の中で中央公園の拡大地域と位置づけておりますが台峯をどのような形で保全すべきですか。
石渡徳一氏　「緑の基本計画」に定めたとおり、中央公園の拡大地域として保全する。全面保全に向けて、市長みずから事業者と誠心誠意、話し合いを進める。

質問　４　現在、台峯の保全協議が進められていますが、その内容の経過、進捗状況が市民に開示されておりません。
石渡徳一氏　事業者との話し合い、国県との協議の経過を市民に公開する。

質問　５　緑地保全には多額の費用がかかりますが、「みどり債」（用途は緑地保全に限定した市債）等、具体的な財政的裏付けの必要性は。
石渡徳一氏　一般会計とは別に、特別会計を設けて、緑地保全にかかわる債務を明確にし、市民の理解と協力得ることは、検討すべきと考えます。

質問　６　鎌倉市の景観を維持するため建物の高さ制限、現行８メートル（第一種住居地域）を緩和する動きがありますがどのようにお考えですか。
石渡徳一氏　風致地区の種別の見直しの問題として、一定の解決を得たものと理解しております。今後は条例による規制ですので、厳しくなったのではないかと考えます。

第３回北鎌倉台峯の集いアンケート結果

（寄せられた返信はがき回答）

▽返信数　１６５　▽当日会出席　３８　▽欠席１２７

返信用はがきに寄せられた主なご意見

１．失われていく緑への危機感を表明されたもの

２．新市長の政策の危惧を表明されたもの

３．他の団体・組織との協力が必要だとするもの

４．地元や観光客へのＰＲえお活発にすることが必要とかかれたもの

その他個人的なご意見

・クリスチャンのため日曜日にいけないので１回でも土曜または祭日に開催していただけるとありがたい。景観を守るためもっと基金の面でも協力したい　小山　清様

・ねばり強い活動に敬意を表します。めったに行けませんが北鎌倉は昔のままであってほしいというのが僕の願いです

広川　浩様

・鎌倉、北鎌倉の場合他とは違い緑が失われるということは安らぎだけでなく歴史そのものが失われることにも通じると思います。

橋本　直七様

・会員を相続したため名簿の名前変更を願います。

（ご尊父様が本年１月なくなったため）友松　浩志様

その他ほとんどの皆様から担当者の労をねぎらっていただきました。今後の運動に参考にさせていただきます。

建長寺展望台から見た台峯

高野台の宅地開発の現状

当基金は開発計画の見直しを鎌倉市、事業者の大本組に要望したが、力及ばず4月から事実上の本工事に入った。

8月には、宅地開発現場から中世の鎌倉石の石切り場の大規模遺跡が発掘され、一般公開された。遺跡をそのまま保全してほしい、との市民の声もあったが、記録保存のみで、遺跡は破壊された。

不本意ながら、開発という名の破壊が、古都北鎌倉で進行中だ。

開発という名の破壊が進む！

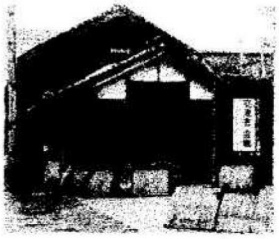
生活道路をダンプが走る

遺跡公開には1000人もの市民が

正気（しょうき）を保てる街

ナショナル・トラスト全国大会 in 臼杵に参加して

理事（広報担当）野口　稔



←交流会会場

10月20日から21日までの2日間、大分県臼杵市で開かれた第19回ナショナル・トラスト全国大会に参加した。今大会のテーマは「歴史遺産と自然環境との共生―臼杵型ナショナル・トラストの実現に向けて―」。九州で初めて開催されるナショナル・トラストの全国大会とあって、地元紙の大分合同新聞が、開幕を２０日付け夕刊の一面で、大きく報じていた。

豊後の小京都と称される臼杵市は、人口約3万7千人、三方を緑の山に囲まれ、正面に豊後水道を望んでいる。国宝・臼杵石仏が有名で、戦国時代のキリシタン大名・大友宗麟の城下町だ。石畳、漆喰づくりの木造家屋が続く迷路状の街路は、中世城下町の景観を色濃く漂わせている。自然環境と歴史環境に恵まれている点では、鎌倉市と共通している。

私が参加したのは20日午後の「開会式＋団体報告」、シンポジウム「歴史遺産と自然環境との共生」、交流会「つどおう　歴史と文化の薫る地で」と21日の記念講演「まちまもり」と「まちのこし」、ワークショップ全体会「臼杵型トラストを探ろう」だった。参加した中のプログラムで印象に残ったのは、映画監督の大林宣彦氏と後藤國利臼杵市長の記念講演「まちまもり」と「まちのこし」だ。自然環境や景観の保全、街づくりの大きなヒントを得た気がする。大林監督は故郷の尾道市を舞台にした「転校生」「時をかける少女」「さびしんぼう」の三部作で高い評価を受け、現在、臼杵を舞台にした「なごり雪」を製作中だ。

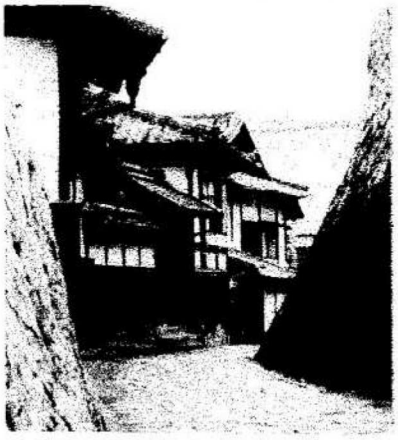
後藤市長は、30年前臼杵市に持ち上がったセメント工場建設計画に対し、地元紙に「臼杵を白い町にしないで下さい」と全面広告を打つなどし、反対運動の先頭に立った過去がある。「待ち」とは、新しい変化については、時間をかけてゆっくり成熟するのを待つことであり「のこし」というのは、古い大切なものを、しっかり守り残すことだと考え、「待ち残し」による「町おこし」を基本理念に掲げている。

記念講演する大林監督

講演のさわりを紹介する。大林監督は臼杵で映画を撮ることになった理由を「戦後日本は開発という名の破壊によって、心のひだを壊していった。私は故郷であえてこのひだを撮り続けた。これが私の『まちまもり』。臼杵市はみだりに古いものを壊さない『待ち残し』による『町おこし』をしている。ここに理念とすべきものがある。臼杵は背筋の伸びた、正気を保てる街だ。21世紀を戦争の世紀にしてはいけない。私たちが何をすべきか考えるために、小さな街で一本の映画をつくった」と静かで穏やかではあるが、信念に満ちた口調で語った。

一方、後藤市長は「セメント工場建設反対運動に関しては、原罪意識がある。信念を貫いたことはいい。しかし、工場建設を望む人々の方が多く、臼杵の街を二つに割ってしまった。少数意見を貫いた後ろめたさが付きまとってきた。でも今日、30年前の全面広告を引っ張り出して、『待ち残し』への重大な覚悟を決めた」と心情を吐露した。最後に大林監督は「後藤市長は映画監督になれる。恐れを持つことが映画監督の資質だからだ。偉大な黒澤明監督でさえ、OKの背後にある間違いに常に怯えていた。評価はOKを出したことが、人間を幸せにしたかどうかで決まる」と結んだ。

しっくい、石畳…中世城下町の景観が色濃く残る



反省点と次期大会へ向けての提案

（1）資料の準備。機関誌の創刊号と第２号が会場に到着したのが、大会２日目の午後になってしまった。参加者の目に触れる時間が少なかった。同じ神奈川県のトラスト団体「小網代の森を守る会」が、カラー写真や出版物を大々的に展示していた。今年度の事業活動計画に「小網代の森を守る会」との交流があるが、是非とも実現し、ノウハウを学びたいものだ。

(2) 予算の制約はあるが、できればブレ大会からの参加が望ましいと考える。遠距離で開催される（次回は知床１００平方メートル運動の北海道・斜里町）ので、一番経費のかかるのは宿泊費ではなく交通費だ。また、各理事が交代で参加することを提案したい。

北鎌倉文学散歩

東慶寺

和泉　あき理事（相模女子大学名誉教授）

円覚寺などに比べると東慶寺はそのたたずまいににも、咲く花々にも気のせいか優しさが感じられます。「駆け込み寺、縁切り寺」としてのこのお寺の来歴については、井上禅定師をはじめ、多くの研究者、郷土史家の著書がありますから、私などが触れるまでもありません。江戸時代でも妻の側からの縁切りが必ずしも不可能ではなかった、という最近の研究がありますし、中世以来、いわゆる「無縁」の場とされた寺院の意味については、興味深い問題が多いのですが、いずれにしても、このお寺が幸い薄い女たちのアジールであったことは確かでしょう。

お庭の敷石を踏んで進むと、崖際までの奥まった墓地には小林秀雄、川田順、前田青★や、いわゆる岩波系文化人のお墓が沢山並んでいて、これほど著名な方々のお墓が多いお寺はほかにないのではないかと思えます。

田村俊子の記念碑

もうひとつ、このお墓には印象深い墓碑があります。道から石段を登り小さな山門を入ってすぐ左手に鐘楼がありますが、その傍ら、梅の古木の下に田村俊子の記念碑といってもささやかな石碑があります。日本の敗戦直前、上海の路上で昏倒しそのまま帰らぬ人となった田村俊子について、戦後、彼女のカナダ時代の友人や、女性作家の仲間たちが集まって、「田村俊子の会」をつくり、今見るようなささやかな記念碑が立てられ、遺骨を埋葬したのでした。彼女には遺族もなかったため、その印税で「田村俊子賞」が設けられ、毎年東慶寺で賞が贈られたのでした。今はもう中断されてしまっています。

真杉静枝の墓碑

田村俊子の墓碑と向かい合うの墓碑があります。彼女もまた惨な晩年を迎えた人でした。そだった中山義秀と結婚していたでした。戦後は作品発表の場をたり、広島の原爆で被災した女せるなどして渡米したりしましとして世の批判を浴びることにアメリカやヨーロッパを放浪しの世話を受け、無惨な最後を迎ようにさらにささやかな真杉静枝奔放に生き、数奇な人生を経て悲ういえば一時期、鎌倉文士の一人ので鎌倉に住んだことがあるの失い、身の上相談の回答者になっ性たちを伴い、整形治療を受けさた。それも結局は彼女の売名行為なったのでした。失意と病を抱えたといいます。少数の親切な友人えてここに葬られたのでした。

両方の碑とも今ではほとんど文字が摩滅して読みにくくなっているのですが、そこにはおよそ名を成した人の碑文などとは違う文字が並んでいます。「許して下さい。この頃のように、死を近く感じたことはありません。……だれのためにも、祝福をのこさない私の苦しみを、何卒たすけて下さい。許して下さい。……」。真杉静枝の碑文の一部です。自己拡充の欲望の強さから、女性性を武器として時に男たちを利用し、結局は男性優位社会の中で、自らの破滅を招いてしまわざるを得なかった彼女たちでしたが、東慶寺はそのような悲痛な訴えをも包み、留めてくれるにふさわしい場所なのかもしれないと思います。泉下の彼女たちの魂は安らかでしょうか。

★屯の右にこざとへん

談話室（会員欄）

千葉市にお住まいの長島豊さんは、昨年の2月以来、遠路はるばる何度もトラストの定例行事「なだ　いなだと北鎌 倉周辺をあるく」に家族と一緒に参加されている。「地元密着、全国展開」をモットーにしている当基金にとっては、非常にありがたいことである。そこで、長島さんに参 加するようになったきっかけや実際に歩いてみた印象などを聞いてみた。

―この行事を知ったきっかけは？

長島さん 以前父が日本紀行文学会に参加した時、みどりのサポーターの一員である「鎌倉学塾」の中川さんに、鎌倉の町をご案内いただきました。その後父に勧められ鎌倉で、中川さんにお会いした時、湧水を使った街づくりと自然環境保全を目標に掲げ、活動している「鎌倉湧水ネットワーク」を紹介され、この行事を知りました。

―実際に歩かれた感想をお聞かせ下さい。

長島さん ぼくも鎌倉が好きで学生時代から何度も遊びに来ています。ガイドブック片手にいろいろな場所を歩いてきました。でも、そこで目にする自然はただ単に美しい景色として眺めていただけで、その自然に対する興味とか探求心はあまり持ち合わせていませんでした。それまでの本やテレビなどから得た知識では、評価される自然とは釧路湿原や白神山地、屋久島などのいわゆる「手つかずの自然」であり、人間が作り上げてきた田んぼや雑木林のような小さな自然、いわゆる里山にはそれほど価値があるとは思いませんでした。

しかし、倉久保の谷戸を実際に歩き続けるとそこには想像以上に豊かな自然環境が見えてきます。田んぼや畑、放棄されたままの休耕田、湧き水の小川、小さな池、湿地帯、用水路、竹林、そこに生息している多種多様の植物、野鳥、昆虫、水棲、陸生の小動物たち。はじめはほんの小さな好奇心でも、ガイド役をされている鎌倉自主探鳥会の久保さんや池さんの解説を聞きながら観察を続けると、新しい発見が次々に生まれてきます。実際の自然に触れ合い、体感することよって、より一層の理解と感動が深まっています。

谷戸の自然は農家の方々がつくり、何代にもわたって維持管理されてきた自然環境だと聞きました。昔の人々は米や野菜だけでなく木工用材、燃料、食料、肥料、手工芸品の材料、薬草等さまざまな恵みをこの里山から授かったのでしょう。やがて時代は変わりました。より手軽に、より安全にそしてより確実にそれらのものを手に入れたとき人は里山の恵みを忘れ、遠ざかってしまいました。確かに私たちの生活は便利になり物質的は豊富になりました。でも、同時に失われてしまったもの、新たに必要とされるものもたくさんあるはずです。

大気汚染や水質汚染などの公害や生物の多様性の保護といった環境問題、いじめや少年非行などの教育問題、ストレスや成人病などの健康問題、食料品の安全性や自給率などを含む農業問題等々。ぼくはこれら多くの問題を解決できる知恵がこの谷戸の自然の中に隠されているんじゃないかと思っています。

台峯の秋　ハンノキとハゼ

―それにしてもよくご家族が付いてきますね。

長島さん　もともと大人より子供たちの方が好奇心や冒険心は旺盛ではないでしょうか。彼らはいつも「トトロの森」や「１００エーカーの森」を夢見ています。「里山探検隊出発。」「今回の目的は秋を見つけること」。子供たちは冒険に目覚め、想像を膨らませ、その眼はキラキラ輝き出します。道具の準備も怠りません。虫めがねに双眼鏡、観察用のプラスチックケース、えんぴつにノートにカメラ。それからおやつも少々。

彼らは繰り返し訪れることで色々な楽しみ方を自分たちで見つけて行きます。

「きれいな押し花できたよ」

「池のカエルの名前なににしようか」

「この葉っぱで香水できるかな」

ぼくたちはそんな子供たちが自然の中で生き生きと成長して行く姿を見れることを楽しんでいます。

なだ理事長と長島さん一家

―この体験を今後どのように生かされますか。

長島さん　「人が来ないと谷戸は悲しがる」。ぼくは台峯を里山として保護していくためには、人間の活動がとても大事であること、農家の方々の仕事が単なる生産活動だけでなく、私たちの環境を維持するための重要な役割を果たしていることを教えられました。しかし、伝統的な農作業は人手に頼るところが多く大変な重労働です。そこでこの環境維持の仕事に住民も一緒に参加していければと思います。例えば、農家の方の指導のもと、下草刈りや小川の清掃などの手伝い、生産物の消費や販売などできればと思います。

それからぼくだけかもしれませんが、山歩きの途中、子供たちだけの姿を見かけたことがありません。子供たちは一体どうしているのでしょう。皆さんもそうだと思いますが、台峯緑地を歩いていると日頃すっかり忘れてしまっていた子供時代の懐かしい思い出が、次々とよみがえってきます。「こんな場所でよく遊んだな」とか「こんな遊びよくしたな」とか。ぼくはこの里山にもう一度子供たちを呼び寄せたい。そうなれば必ず子供たちは、自然の中で遊ぶ楽しさ、あらゆる生命の尊さを実感できると思います。

―ご家族から歩かれた感想を一言お願いします。

妻　麻子さん　いつも皆さまにご親切にしていただき、ありがとうございます。初めて参加した時から皆さまともすぐに会話が弾み、心が和むのをうれしく感じます。これからも家族揃って自然を楽しみたい、と思っております。

長女　知美ちゃん　（小学５年生）　朝は少し眠いけどいつも楽しみにしています。理科や社会の勉強のようで、私は来年の夏休みの自由研究にこの体験が役に立てばいいなと思います。

長男　寛之君（小学２年生）　久保さんからカブトムシの見つかる木を教えてもらいました。ぼくは今年の夏カブトムシを買ってもらいましたが、すぐに死んでしまいました。とても残念で、かわいそうでした。おとうさんは「今度、夜カブトムシを見に行こう」と言っています。でも真っ暗で少し怖そうなので、もう少し大きくなったら行こうと思います。

伝言板

◇機関誌「北鎌倉の風」第３号発刊！

そこには日本の原風景がある

伝えたい、かけがえのない生き物たちの宝庫を

見る！

読む！

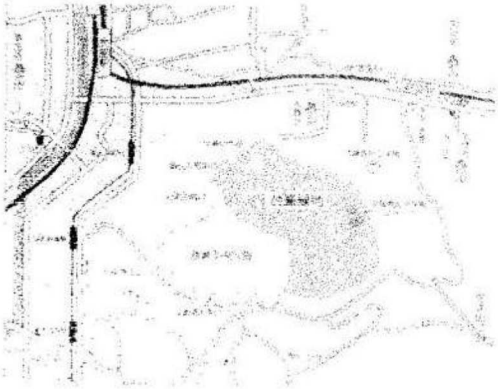
機関誌「北鎌倉の風」で台峯体験を！

各５００円でお分けしています。

【定例行事】

「なだ　いなだと北鎌倉周辺をあるく」

毎月第３日曜日午前９時に北鎌倉・東慶寺手前の山ノ内公会堂に集合、主に台峯から鎌倉中央公園まで、鎌倉自主探鳥会のメンバーの案内で歩きます。解散は正午頃。雨の日はフリートーク。



【ホームページ新規開設】

URL:http://www.kitakamakura-trust.org/

新規会員募集中！

一般年会費　２０００円です。詳細は事務局にお問い合わせ下さい。

＊緑と古刹が織り成す安らぎの街なみ保全に力を貸して下さい＊

発行日…２００１年１２月２日
発行者…NPO法人　北鎌倉の景観を後世に伝える基金

事務局…〒247-0062　鎌倉市山ノ内1045
TEL/FAX　0467-22-4693